

# 塩谷郡市医師会だより

## Contents

平成21年度第4回役員会  
平成21年度第5回役員会  
学術講演会報告  
シリーズ「塩谷医療史」-4-

社団法人 塩谷郡市医師会  
広報委員会

〒329-1312  
さくら市桜野1319番地3  
さくら市氏家保健センター内  
TEL 028(682)3518  
FAX 028(682)5760

## Special Topics

### 次期塩谷郡市医師会長に山田氏

4月10日定時総会で決定に

次の塩谷郡市医師会会長に矢板市の山田聰氏が就任することがほぼ内定した。医師会の選挙管理委員会によると3月27日が会長立候補の締め切りだったが、立候補の届け出をしたのは山田氏だけだった。そのため、選挙は行われずに4月10日の総会の承認で正式に決定される。



山田 聰(やまだ さとし)  
プロフィール

昭和22年生まれ 長崎大学医学部出身  
平成7年矢板市片岡で開業  
平成20年から塩谷郡市医師会副会長を務める。

### 平成21年度第4回役員会報告

平成22年2月8日(月)午後6時30分よりさくら市氏家保健センター医師会事務室で開催された。また、役員会に先立ち、平成22年度第1回塩谷郡市医師連盟委員会が開催

された。

出席者：尾形会長・山田副会長・阿久津副会長・西・後藤・軽部・佐藤・佐野・岡・半田・手塚・尾形新・大和田・越井監事・桑川事務長・植木・仲嶋医師連盟理事(オブザーバー)

### 議題 平成21年度決算見込みおよび平成22年度予算(案)について

西会計担当理事から報告され、会館準備金の取り崩し収入について議論された。今後の予算で削減できる所は行い、身の丈に合った事業展開が必要との意見が多く、次年度はシンポジウムを開催しないことになった。

また、この問題は公益法人移行も絡んでくるため、新しい執行部で話し合われることになった。

### 議題 塩谷病院運営協議会報告および塩谷地区休日夜間こども診療室について

尾形会長より、1月14日に行われた塩谷病院運営協議会について報告があった(医師会だより前号参照)

塩谷地区休日夜間こども診療室について阿久津副会長から12月14日に行われたこども診療室運営協議会の報告があった。平成20年度の受診者数は629名で前年度より20名減少したが、平成21年度は「しおや」と「くるす」が隔月診療に変更したにもかかわらず、新型インフルエンザの影響もあり受診者が増加している。

| 塩谷郡市医師会ホームページ/メール   | 広報委員会編集部  | 医師会事務局   |
|---|---|--|
| URL <a href="http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/">http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/</a><br>メール <a href="mailto:shioya@tochigi-med.or.jp">shioya@tochigi-med.or.jp</a> | 岡 一雄 <a href="mailto:r2d2@msh.biglobe.ne.jp">r2d2@msh.biglobe.ne.jp</a><br>尾形新一郎 <a href="mailto:ogata@o-ga-ta.or.jp">ogata@o-ga-ta.or.jp</a> | 桑川 <a href="mailto:shioya@triton.ocn.ne.jp">shioya@triton.ocn.ne.jp</a><br>坂和 <a href="mailto:sakawa@e-shioya.jp">sakawa@e-shioya.jp</a> |

年末年始のインフルエンザ患者受診者急増で行った対応の報告があった。

次年度のこども診療室は偶数月が「しおや」で奇数月が「くろす」となる。また、県北地区の小児二次救急医療体制に塩谷地区と南那須地区が加わることになったため、各広域行政が受益者数に応じて費用負担することになった。

また尾形会長から、平日夜間の救急体制整備として現行の「こども診療室」と同じ基幹病院内設置方式で毎週水曜日午後7時から10時の3時間の診療提案があったが、議論の末、継続審議となった。

#### 議題 その他

日医生涯教育制度の変更について阿久津副会長から報告があった。編集部注：大幅な変更であり詳細は日本医師会および県医師会の広報参照ください。

地域産業センター運営形態の変更について阿久津副会長（産業医担当）より報告があった。

また医師会費減免年齢の変更について説明あった。日本医師会、県医師会は会費収入増加を図るため、減免年齢を現行の80歳83歳に引き上げることが決まっているが、塩谷郡市医師会はどうするかを議論した所、長い間地域医療に貢献してきた先輩に敬意を表し現行通り80歳でいいのではとの意見が多数を占め、次期総会に諮ることになった。

---

#### 平成21年度第5回役員会報告

平成22年3月8日（月）午後6時30分よりさくら市氏家保健センター医師会集団指導室で開催された。

出席者：尾形会長・山田副会長・阿久津副会長・西・後藤・軽部・佐野・岡・半田・手塚・本間・尾形新・大和田・越井監事・池田監事・

大草総会議長・高橋総会副議長・村井選挙管理委員長・糸川事務長



#### 議題 平成21年度決算見込みおよび平成22年度予算（案）について

西会計担当理事から前回の役員会を踏まえてシンポジウムの予算などを減額した予算書についての説明があり、この決算見込みと予算案を総会にかけることになった。

#### 議題 塩谷郡市医師会役員改選について

村井選挙管理委員長から役員改選の日程等について説明があった。3月11日公示、3月27日立候補締め切りとなり、4月10日の総会で選挙が行われる。

#### 議題 その他

糸川事務長から塩谷郡市医師会が栃木県市町村職員組合（栃木県保険者代表）と特定健診・特定保健指導について「集合契約」を締結する方向で検討したい旨の説明があったが、4月からの契約は時間的に困難ではないかとの意見があり、新執行部で話し合われることになった。

大草議長から、子宮頸がんワクチンの接種がさくら市では公費で行われる方向で話が進んでいることの報告と、医師会で広域、他の市町に公費接種を働きかけてほしい旨の発言があり、医師会として2市2町で足並みをそろえて接種できるようにして働きかけていくことになった。

今回の役員会は尾形会長4期8年の最後の役員会であり、会議終了後、尾形会長に役員から大きな拍手が送られた。

## The Face

### 県医師会の新会長は太田照男氏に



太田 照男（おおた てるお）  
プロフィール 64歳 東京慈恵医大出身  
白沢病院理事長 平成16年から栃木県医師会  
副会長を務めている。

第124回栃木県医師会定例代議員会が3月6日（土）とちぎ健康の森講堂で開催され、平成22年度医師会事業計画、予算などが審議された。また、会長以下役員改選が行われたが立候補が定数を超えなかったため、立候補者全員が承認された。次期会長には、宇都宮市医師会の太田照男氏が選ばれた。

太田氏は新体制では、地域医療連携、在宅医療、広報活動などの充実を表明した。

また、副会長には本会から尾形直三郎氏、常任理事に阿久津博美氏が選ばれた。本会からの副会長選出は昭和61年の黒須篤平氏以来となる。

#### 研修会報告

##### 医療連携体制推進事業第2回症例検討会

2月23日、栃木県地域連携クリティカルパス事業による医療連携体制推進事業「第2回症例検討会」が開かれ、医師、訪問看護師、介護職、ケアマネージャーなど34名が参加した。市町ごとに討論が行われた



塩谷地区2市2町ごとに6～8名のチームを編成して症例検討を行った。参加者から、提示された症例に対し、問題行動の有無や介護度5に該当するかどうか、嚥下障害の原因は何か、頭部CT検査の有無、口腔内ケア、薬剤内服の状況、胃緞の管理は可能かなどのさまざまな質問が出された。その後、チームごとの検討会に移り、約40分間活発な討論がなされた。（報告：阿久津博美）

#### 学術講演会報告

##### 糖尿病・慢性腎臓病（CKD）予防講演会開催

日時：平成22年2月9日（火）

演題：「慢性腎臓病を減らすために」

講師：済生会宇都宮病院腎内分泌科

大久保泰宏先生

腎不全患者は世界的に増加傾向であり、透析患者も増加している。またCKDは脳心血管病の独立した危険因子であることが判明したため、CKDがますます注目を集めている。そのCKDを減らすためにはメタボリック症候群の改善と高血圧の治療が重要である。今回の大久保先生の講演は、高血圧の治療と糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症の治療のコツを分かりやすく解説してくれた。高血圧治療では糖尿病性腎症や蛋白尿を伴う糸球体腎炎の場合はRA系降圧薬（ARB/ACE阻害薬）を使用し、腎硬化症や多発性嚢胞腎、間質性腎障害の場合は降圧剤の種類を問わないことやARBとサイアザイド利尿剤の併用、Ca拮抗剤、レニン阻害剤についても詳しく説明してくれた。糖尿病の治療では、早期の治療介入の必要性や早めのインスリン導入、新しい糖尿病薬であるインクレミン製剤について説明があった。

またCKDの発見と専門医に紹介するタイミングについても言及し、今後CKDについての医療連携の重要性が確認された。

### 渡辺清絵日記と明治の医療

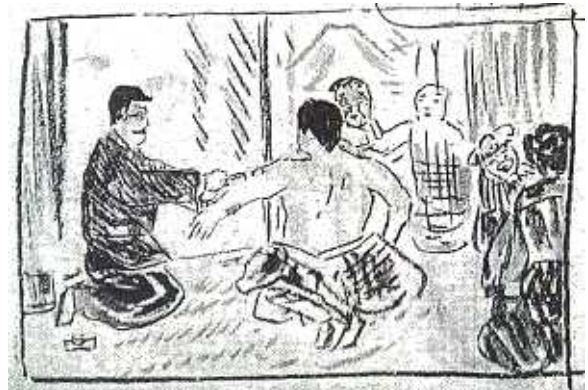
旧熟田村狭間田（現さくら市）の農民渡辺清が明治39年から大正5年までつづった絵日記（通称百姓絵日記）は当時の農に生きた人々の暮らしを教えてくれる貴重な資料である。気取らない絵と文章は農作業、習俗、出来事などを生き生きと伝え、何度読んでも飽きることがない。実はこの日記には当時の医療事情を知ることができる情報もたくさん含まれている。

2001年秋にさくら市ミュージアムで開催された「みんなの大恩人 黒須菊三九・光雄先生」展の調査で黒須病院の前身が氏家共立病院であり、さらに氏家共立病院の前身は五十嵐病院であることがわかった。では、五十嵐病院とはどんな病院であったのかということで調査を始めた所、この絵日記の明治39（1906）年8月13日に「友人の末吉君、境君と一緒に末吉君のお母さんの薬を取りに五十嵐病院に行った」という記載を発見することができたのである。（五十嵐病院については前々回を参照）

さらに塩谷医療史研究会のメンバーがこの絵日記の中に医療に関するさまざまな情報を見出してくれた。今回はその一部を紹介しよう。

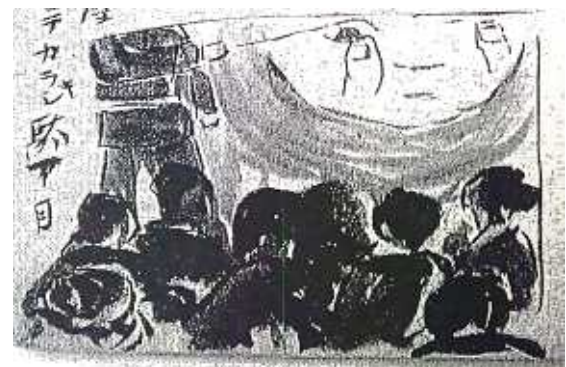
天然痘は人類が最も恐れた伝染病の一つであるが、その予防法として牛痘種痘法が幕末に日本に伝来する。種痘は明治になって組織的に普及し、天然痘はずいぶん減ったが、明治中頃でもまだ身近な病気であった。絵日記には明治41（1908）年2月29日に「午後油屋に痘植に行く。早や人大抵完り又直に植え貰う。添田醫に阿見醫なり。父は衛生にて書記（受付）なりき」と記載され、種痘の場

面の絵が描かれている。年代から添田醫は添田兼松、阿見醫は阿見良作と考えられる。また、絵に描かれている医師は眼鏡をかけて髭を生やし、角ばった顔をしており、添田兼松医師らしい。



明治41年4月20日の日記では「今日こそ春季大衛生清潔法 中略 生石灰を煮沸せしめ 中略 巡查衛生見回り」と書かれ、その日に各戸が伝染病予防のために衛生清潔法を行い、それを巡查が見回りに来たことがわかる。

明治41年9月23日の日記では「衛生講話を油屋で聴す。夜は衛生幻燈会、機械破損してからきし駄目」と書かれ、衛生観念の普及のための講話や幻燈会が開かれていたことがわかる。眼の下を指でひっぱり眼球結膜や眼瞼結膜の具合を幻燈で映して説明しているところを描いている。



明治時代の伝染病の防疫は官憲が中心となつて行われ、消毒は石灰乳、生石灰または石灰酸水を用いた。各地には衛生委員が置かれ、医師は防疫医として活躍した。

（担当：岡 一雄）